

大妻同窓会福島だより



花見山(福島市)

ごあいさつ

大妻同窓会福島代表 武藤みや子
昭和45年 大学家政卒

大妻同窓会福島の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大により、不要不急の外出の自粛、マスクの着用、ソーシャルディスタンスなど私たちの生活環境が一変してしまいました。そのような中で、令和2年度の総会も中止せざるを得なくなってしまいました。

また、今年の3月11日は、あの東日本大震災と原発事故から10年を迎えました。被災されました皆様方はどのような思いでこの10年を過ごされたかと思うと心が痛みます。いまだに、県の内外には3万6千人近くの方が避難生活を送られています。一日も早く元の生活を取り戻していただきたいと願っております。

ところで、大学被服学科の水谷千代美教授は、被災地である大熊町の小学生と学生との交流に力を注いでこられました。この活動に対し、デンマーク在住日本人会から支援があり、その時の活動の様子が日本人会の会報誌に「東日本大震災から10年」という特集で発表されることになりました。水谷先生と学生の皆様には、極寒の季節に会津若松市に避難されている大熊町立熊町・大野の両小学校に何度も足を運んで授業をしていただきました。この時、同窓会としてほんの少しですがお手伝いが出来たことは忘れられない思い出です。

何かと行き届かないことばかりで会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが、今後とも同窓会福島の活動にご協力をお願い致します。



井上会長にお聞きしました

今回は、私たちが記念会を訪問し井上会長にお話を伺うという計画でしたが、新型コロナの関係で上京できず、書面で回答して頂きました。

(一財)大妻コタカ記念会 会長 井上早百合

1. 記念会の今後への取り組み/コタカ先生家の管理について

昨年はコロナウイルス感染拡大により、全国的に人々の行動が大きく制約され、記念会活動もほとんど休止状態でした。その中でも大妻コタカ・良馬研究所との共同作業として「女子教育の先駆者大妻コタカ」と「コタカ先生からあなたへ」の2本の動画を作成し、地方同窓会の代表の方を始め関係の各所に配布しYouTubeにもあげ、広く見ていただきコタカ先生のことをより多くの方に知っていただけるように努めました。

こうした取り組みの根本には、優れた女子教育者として大妻コタカの名を後世に残し「大妻精神の継承と具現」という記念会の目的の一つの実践にあります。

このコロナ禍でオンラインによる通信技術が一気に広まりました。記念会でも従来から地方の方々に文化講演会を何とかお届けしたいと考えていたこともあり、今後ご自宅でも見て参加していただけるように検討していきたいと思っています。

広島県世羅町のコタカ先生の生家で営まれているお食事処「ごもくめし」においてになった方々にも、先の2つの動画が見られるように設備を整えました。地元でも大妻コタカを知らない人が多くなってきた現在、幸いにも生家を訪れる方は多くおられ、明治の時代に強い向学心で上京した後、興した学校が大きく発展して現在に至っていることをアピールし、女子教育者として大きな足跡を残した大妻コタカを知っていただきたいと思っています。皆様にも是非一度、築数百年といわれる生家を訪ねていただくと幸いです。

2. 学生の現状/大学との連携

昨年度は大学生の登校がほとんどできず、オンラインでの授業が中心でしたが、後期から実験・実習やゼミなどの対面授業が加わりました。パソコンの用意がない学生には急遽貸与するなど学生にとって不利益が無いような措置がとら

れ、未経験な先生もオンライン授業に取り組まれ、いかに学生と双方向の授業ができるか模索されました。そのご苦労は並大抵のものではなかったと思われます。今年度4月からは感染状況を見定めた上で対面授業を大幅に増やすことが考えられています。

昨年の新入生は憧れの大学生生活がままならず、サークル活動や文化祭などの行事も経験せずに一年が過ぎてしまいました。今年こそは大学生の体験ができるといいですね。

学修支援の寄付の願いを学院に協力して記念会でも呼びかけをし、多くの卒業生の方にご協力いただき、理事長も大変感謝されておりました。理事長は当初「これを機に卒業生があらためて母校に思いを馳せ、学生との絆を感じてもらえると有り難い」とお話されており、そのお気持ちは十分卒業生の心に届いたものと思います。

記念会では従来から育英奨学金の給付や、各学年の優秀な学生に対する大妻コタカ奨励賞の助成、卒業時には大妻コタカ賞の授与などを行い、更には新入生に大妻教養講座の一環として「大妻コタカ先生の目指したもの」というタイトルで私がお話をしています。

このように様々な場を通して大学との連携を保ち、学生が大妻を誇りに持ち、今後の人生の礎をこの大妻で築き社会で活躍していただけることを願っています。

3. 地方同窓会に期待すること

利害関係なく、年代差を超えて繋がれる良さは同窓会活動の大きなメリットでしょう。異なる年代の人が集い語りことから生き方や考え方を学び、自分の知らない世界を垣間見ることの喜びを得ていく、そのようなことを大切に、自分の居場所がある安心感を持っていただけると良いなと思います。

いずれの地方同窓会も年々会員が減少していくことは悩みの種であり、これは記念会も同様です。先に述べた同窓会に属する喜びを理解されるように、地方同窓会・記念会の存在の発信が大切な事だと思っています。

エールをあなたに…

昨年から続く終わりの見えないコロナ禍…。いつもと違う日常を送っていることと思います。そんな今だから伝えたい。送りたいエールがあります。今回は4人の方々にそれぞれの思いを寄せていただきました。

昭和45年短大英文卒 丹治てい子

大妻女短を卒業してから、早50年、アツという間に時は流れました。就職、結婚、子育て、結婚してから自宅で始めた食品販売の自営業。現在は、午前のみ細々と自営業を続けています。午後は、二本松にある霞ヶ城跡を夫と散歩したりしてすごしています。

世界中に広がるコロナ!! その話題がない日はありませんね。しかし昨年、東京に住んでいる娘から朗報がとどきました…?。

そして令和3年1月4日、第二子女の子が誕生しました。とても会いたいのですが、このコロナ禍のさなか行けません。ですが、スマホやパソコンで写真を見たり、宅配を利用して荷物を送ったり、電話で話したりしていろいろ工夫してやりとりしています。

早く前の様に自由に往来できる様になればいいなと思っています。みんなで今、できる事を守って乗り越えていきましょう。



昭和56年短大英文卒 三浦 節子

私がエールを送りたいのは4人の子供達である。まずは、長男。稼業を継ぎ外溝工事、除雪作業など新しい事業にも取り組んで、一生懸命会社を盛り上げようと奮闘している。

長女は、18歳で会津を離れ同じ職場で知り合った方と結婚し、今では2人の母親だ。嫁、妻、母親の3役を試行錯誤しながらがんばっている姿は頼もしい。

次女は、子供の頃から憧れていた東京に就職が実現し5年目になる。人並みに仕事面、人間関係面で悩み、ストレスを抱えているようだが、持ち前の明るさで乗り越えてきているようだ。

最後に次男。4人目ともあって、思うように手を掛けてあげられなかったが、自立心の強い子供に育ってくれたと思う。ほとんど連絡をしてこない次男だが、時折「米送ってくれる?」という8文字のラインが今の私には、実に嬉しい。

これからの人生4人4様、山あり谷あり色々あると思うが、うまく乗り越えて行って欲しいとエールを送りたい。

昭和50年大学食物卒 渡部 幸子

新型コロナウイルスの影響で、今の後輩の皆さんは、思い描いていた学生生活を送ることができていない人が大半だと思います。

私が大妻で過ごした4年間は、かけがえのない時間でした。福島から上京し、新しい友人たちと講義を受けたり、実習したり、マンドリンクラブの活動に熱中していました。時には美味しいものめぐりをしたり、都会の街並みを歩いてみると、これが所謂、花の女子大生の生活だったと思います。でも、今の学生の皆さんは、こんな当たり前の日常すら送ることができていないのかなと思うと胸が痛みます。

でも、きっと皆さんの周りには、コロナ禍でもよい環境で学んでもらおうと親身になって支えてくださる先生方がいらっしゃると思います。また、同じ境遇で励まし合える同窓の仲間もいると思います。

皆さんしか体験できない学生生活を通して、当たり前の日常が戻った時、それはきっと生きていく力となっているに違いありません。もう少しの辛抱です。今はエネルギーを貯めていつか大きな花を咲かせてくれることを切に願います。

『輝け、後輩たち!』

昭和60年短大家政卒 郡司 浩子

コロナ禍のこの1年、時が止まってしまったかのような思いがあります。が、その中でも確実に時計の針は動いているのが分かります。昨年の夏前、日頃関わっている子どもたちが一言、ぼく達何もなくなっちゃった…。中学3年間一生懸命取り組んでいたサッカー部の試合がことごとく中止になり、楽しみにしていた修学旅行も延期そして縮小、学校生活の制限、子ども達の顔から純粋な笑顔が消えかかっていた…。しかしその後の制限付きではあるものの、日常の学校生活の活動の中で健やかに成長している姿を見ることができるようにもなってきました。この子ども達の逞しさに目を見張るものを感じます。私たち大人もうかうかしてられません。現在を受け入れ、感染を防ぐ手立てを講じながら日常の有難さに感謝をし過ごすことが大切なのだと…。折しも子ども達の受験の季節です。そしてどの子の未来にも、あたたかい春が訪れますようにと、エールを送りたいと思います。

私の住む「まち」

会員の皆様から、現在お住まいの「まち」を紹介していただきます。

小野町探訪

昭和42年大学家政卒 芳賀 恵子

あぶくま高原の町、小野小町生誕伝説とリカちゃんふるさとの人口9,481人の小さな町です。9世紀頃小野篁(おののたかむら)が陸奥守として田村市の一部を含めて「小野六郷」と総称したのがルーツと言われています。小野篁が荘園に仕える娘、愛子(めずらこ)との間に生まれた愛らしい姫を比古姫と名付け、姫を連れ都へ上った。この比古姫が小野小町であるという説です。小野小町誕生の地と小野篁館跡、愛子神社など美女伝説が残っています。

小野篁が陸奥守として一帯をおさめた時代中世の建造物は文化財に指定され、東堂山満福寺の鐘楼や昭和羅漢、現在440体以上の個性あふれる羅漢を見ることができます。

リカちゃんキャッスルはリカちゃん25周年を記念して作られたリカちゃんのお城で初代から今までの人形が展示されています。また自分のオリジナルの人形を作ることができる女の子の憧れのつまったお城です。

春の夏井の千本桜(4月中旬頃)赤沼無量寺の一本桜、5月下旬には高柴山の山つつじ等があり、季節に応じた散策ができます。

高齢化が進み人口も減ってきていますが、伝統を守っていかれたらと思っています。ぜひ訪ねてみてください。お待ちしております。



大妻同窓会福島役員 (令和2年度)

代表	武藤	みや子	(昭45 大学 家政卒)
副代表	渡部	幸子	(昭50 大学 食物卒)
副代表	阿部	晶子	(昭53 短大 英文卒)
会計	越尾	茂子	(昭56 短大 英文卒)
会計	三浦	節子	(昭56 短大 英文卒)
監査	大竹	美登里	(昭52 短大 被服卒)
監査	小松	宏子	(昭53 大学 被服卒)
相談役	佐藤	瑞穂	(昭38 大学 家政卒)

令和3年度の計画

10月3日(日) 令和3年度総会・懇親会
会場未定

随時 役員会

令和4年

3月31日 会報第14号発行

大妻同窓会福島 会費納入のお願い

◎ 年会費 1,500円

入会を希望される方、お忘れの方は下記にお振り込みくださいますようお願いいたします。

加入者名：大妻同窓会福島

口座記号番号：

編集後記

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により総会をはじめとする活動が中止となりましたが、皆様方のご協力によりどうにか会報を発行することができました。

お忙しい中、原稿を執筆いただきました皆様方には心より感謝申し上げます。(役員一同)

編集発行人	大妻同窓会福島会報 武藤みや子
発行所	大妻同窓会福島
発行日	令和3年3月31日
印刷所	有限会社 わかさ印刷 (会津若松市町北町上荒久田字崖下16-2)